

一般社団法人日本鉱物科学会
2021年度第2回定例理事会 議事録

【1】招集年月日：2022年5月13日(金)

【2】開催年月日及び時刻：2022年5月21日(土) 14時15分～17時25分

【3】開催場所：国立科学博物館総合研究棟4階 地学研究部長室
〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1
(Zoom Meeting によるオンライン会議)

【4】理事総数および定足数：総数22名，定足数12名

【5】出席理事数：20名 Web会議参加

宮脇律郎， 大和田正明， 安東淳一， 阿部なつ江， 井上 徹， 池田 剛， 磯部博志，
大藤弘明， 鍵 裕之， 川本竜彦， 河上哲生， 栗林貴弘， 黒澤正紀， 辻森 樹，
土屋範芳， 永井隆哉， 永嶋真理子， 伴 雅雄， 塚本尚義， 吉朝 朗

【6】欠席理事数：2名(片山郁夫，三宅 亮)

【7】出席監事：小暮敏博

【8】オブザーバー：(理事以外の幹事，委員長等報告事項報告者)

出席：森下知晃Elements幹事，高澤栄一和文誌編集幹事，中村佳博選挙管理委員会委員，坂野靖行博物館委員会委員長，西山忠男学術会議連絡委員・IMA小委員会委員長，小西博巳2022年年会運営委員会委員長，篠田圭司2023年年会運営委員会委員長，糺谷 浩日本鉱物科学会論文賞選考委員会委員長，川野 潤応用鉱物科学賞選考委員会委員長，M. Satish-Kumar2021年度JMPS学生論文賞選考委員会委員長，吉田健太研究発表優秀賞選考委員会委員長

欠席：門馬綱一JpGU2022年学会選出プログラム正委員，新鉱物・命名・分類委員会委員長，林信太郎教育普及委員会委員長，松原 聰櫻井賞選考委員会委員長

【9】議事概要

宮脇理事の発議により議長を理事の互選で選ぶことになり，黒澤正紀理事が議長に選出された。黒澤議長から，2022年5月13日に理事会招集通知を行い，本日第2回定例理事会を開催することになった旨の報告があった。

次に，決議定足数と開始時刻における出席理事数の確認を行い，理事20名の出席を確認したので，定款30条により理事会が成立した。このことを受け，黒澤議長はWEB会議システム(ZOOM Meeting)を用いての理事会開会を宣言した。また，WEB会議システムの通信状況(出席者全員の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり，適時的確な意見表明が互いにできる状況)に問題がないことを確認し，2021年度第2回定例理事会を開始した。

会議に先立ち、理事の互選で黒澤正紀理事が書記として選出された。

1. 報告事項

1. 会長・副会長の職務執行報告（宮脇会長・大和田副会長）

会長より、学会状況の簡単な報告があった。個別の業務は各担当者に一任していることから、以下の順に沿って各担当者から報告を行った。

2. 会員報告（阿部会員幹事・理事）

阿部会員幹事より、2021年度第2回臨時理事会(2022年3月31日)以降の会員動静について、以下の通り報告がなされた。物故会員1名(シニア会員1名)、退会者4名(内訳：シニア会員1名、一般会員2名、学生会員1名)であった。

3. 広報報告（大藤広報幹事・理事）

大藤広報幹事より、広報活動について以下の通り報告がなされた。

- (1) 会員へのML送信：事務局を通じ、2021年は総会以降に1件、2022年は現在までに5件配信。内容は、学会事務連絡、学術雑誌の刊行案内、公募情報、関連学会の催し等の案内などの他、JMPS、GKKの電子ジャーナル化とそれに伴う会費改正について周知を行った。
- (2) 学会HPおよび公式SNS(Facebook, twitter) を通じた広報活動：学会HPの更新は事務局を通じ、学会事務連絡、学術雑誌の刊行案内、公募情報、関連学会の催し等の案内などの周知を実施。公式SNSでもそれらの情報を発信、会員関係者から依頼のあった周知情報の発信も実施(会員によるプレスリリース2件、学会取材内容の掲載2件、催し・お知らせ3件他)(twitter: 石橋委員, Facebook: 浜田委員が担当)。また、公式SNSによる情報発信のための依頼窓口を学会HP上に設置した。
- (3) 学会公式YouTubeチャンネルの開設：YouTube担当延寿委員を中心に愛媛大の会員の協力を得て、鉱物・岩石の性質に関する紹介動画を作成、公式YouTubeチャンネル上で公開(現在8本の動画を公開中)。今後、シリーズ化し、動画コンテンツの拡充を図る予定。
- (4) 文部科学省の科学技術週間への参加：文科省からの参加要請を受け、2022年4月18～24日の科学技術週間に合わせたオンライン企画(公式YouTubeチャンネルの動画コンテンツへのリンクを張った特設サイトを作成、公開)を実施。
- (5) 取材対応記事の公開：株式会社「えにさむ」のホームページ内の故イ未来(フルイミライ)コーナーで当学会活動内容を紹介いただいた(<https://furuimirai.anysome.co.jp/articles/jams/>)。また、政府のオンライン雑誌Highlighting Japanで、ヒスイの歴史や人々との関わり、国石としての選定経緯等を紹介いただいた。

(https://www.gov-online.go.jp/pdf/hlj/20211001/hlj_202110_10-11_Jadeite_A_Representative_Stone_of_Japan.pdf)。

4. 渉外報告（永嶋渉外幹事・理事）

特に報告事項なし。

5．和文誌編集報告（高澤和文誌幹事）

高澤和文誌編集幹事代理より，編集状況および2022年5月21日12:00-13:00に開催された和文誌GKK編集委員会の内容について報告がなされた．

- (1) 編集状況報告(5月18日現在): 1)2022年4月30日に，岩石鉱物科学2022年51巻1号を電子ジャーナルとして公開（内訳：受賞紹介3編，資料・解説2件）．現在査読中論文3編(内訳：受賞者紹介記事2編，原著論文1編)．
- (2) GKK編集委員会報告(2022年5月21日12:00-13:00)：依頼原稿の8つのカテゴリーに対し、各担当者を決定(計23名)．今後，運用をどのように進めるか検討中．

6．英文誌編集報告（吉朝英文誌幹事代理：永井JMPS副編集委員長・理事）

永井JMPS副編集委員長より，JMPSの編集状況について以下の報告がなされた．

(1) 報告事項

1) JMPS状況報告（2022年5月19日現在）・投稿数状況報告：2022年上半期投稿数9編，前年の2021年投稿数26編,その前の2020年投稿数35編に続きコロナ禍で投稿数が大幅減少．編集状況：査読中5編，返却中3編・発行状況：2021年9月の報告以降2022年5月19日現在まで116巻4号(8月号)2021年10月発行，5号(10月号)2022年2月発行，6号(12月号)2022年3月発行の計3号が冊子体として発行された．116巻1号(2021年2月)から116巻6号(2021年12月)までの掲載件数頁数は次の通り：Articles 23件265p, Letters 8件43p, Technical 1件5p, Editorial 1p, 投稿規程 3p, Index 4p, Contents 4p, 白頁2p, 6号分合計頁327p, 1号平均頁54.5p．2)電子ジャーナルの発行状況: 117巻1号(2022年)（公開中2編）.公開準備中3編．以上から，JMPSへの投稿はコロナ禍で激減しており，引き続き投稿をお願いしたい．また，116巻6号は，発行年は2021年であるが，コロナ下で投稿数が少ない中，一定の論文数を揃えて年間6号を刊行するという運営細則第22条の規定上，一部には2022年に受理した論文も含まれている．この件は，編集委員会からのアナウンスとして今後J-Stageなどに公開する予定．117巻からは電子ジャーナル版に移行し，現在，2本の論文が公開されている．電子版では論文のヘッダーも一新され，各論文には3桁の公開順の番号が割り振られる．国際鉱物年のロゴについては，今後公開する論文に掲載する予定である．現在，投稿規定には原稿の種類によってページ数の制限が示されているが，Original ArticleとReviewについては，長さ制限を廃止する予定．Letterについては，そのまま制限を維持する．

(2) JMPS編集委員会報告(2022年5月21日10:30-11:30)：1) 報告事項：JSTが運用している日本語プレプリントサーバーJxiv(ジェイカイク)とデータリポジトリJ-Stage Dataの活用については前向きに継続審議の予定．J-Stage公開済み論文を大学など各種リポジトリで公開することの是非についても今後検討の予定．編集委員会のメンバーの人選についても検討を進める．2) 審議事項：Satish-Kumar JMPS学生論文賞選考委員会委員長より，2021年度JMPS学生論文賞審査結果については以下の通り報告がなされ，後記の本理事会で審議される．

第13回対象論文：A new occurrence of okhotskite in the Kurosegawa belt, Kyushu, Japan: the okhotskite + Mn-lawsonite assemblage as a potential high-pressure indicator. JMPS, 115-6 431-439 2020. 学生会員筆頭著者：藪田渉．

第14回対象論文：Modulated structure of hemimorphite associated with pressure-induced phase transition.

JMPS, 116-5, 251-262, 2021. 学生会員筆頭著者：岡本啓太郎.

以上の報告の後、2件の質疑があった。電子ジャーナルとして発刊された論文の論文番号について、論文の通し番号とJ-Stage登録の際に付与される番号(Article ID)が異なっており、分かりにくいとの意見があり、この件について次のように説明があった。JMPS論文ヘッダーにつけている通し番号は、電子ジャーナル公開順番の番号である。また、Article ID(論文番号)はJMPSでは投稿受付日を論文番号としており、doiの末尾となっており、J-Stageから付与されたものではない。更に電子ジャーナル化になり、各論文には冊子体の様な1巻を通しての「通しページ」を付けないことにした。以上からJ-Stage搭載システムでは、JMPS電子ジャーナルの様に「通しページ」がない場合は、論文番号を入力することがJ-Stageシステムの仕様になっているので、変更はできない。以上から論文1頁目には3桁の年間公開順の番号を表示し、doiなどにはJMPSで付与した論文番号を表示していることをご理解いただきたい。また、現在の公表論文については、保護付きPDFをやめる対応となっていたはずだが、現在も一部機能が保護されている件について質問があり、次のように説明があった。当時の要望はコピーを可能にすることであったので、それ以降(112巻3号から)現在まで、JMPSではコピーは可能にしたが、それ以前の過去の公開分については、コピー解除作業の費用の問題があり解除しないことになった。それ以外の制限はそのまま残されており、この件に対する対応は編集員会で検討することになった。

7. 庶務報告(黒澤庶務幹事・理事)

黒澤庶務幹事より、2021年度第1回定例理事会(2021年9月18日)以降の庶務業務について以下の報告がなされた。

1)2020年度定例総会開催(広島大学)、総会招集通知資料発送、総会議事録作成確認。2)2021年度第1回定例理事会、第1回臨時理事会、第2回臨時理事会、第2回定例理事会(すべてWEB会議)開催関連、WEB会議準備、資料作成、議事録作成、3)各賞公募会員アナウンス、役員選挙アナウンス対応、4)後援、共催、協賛、アンケート対応、5)会員への連絡、学会誌発送(2022年3月終了)、6)令和4年度日本学術振興会賞、育志賞受賞候補者募集のアナウンス

8. 行事報告(磯部行事幹事・理事)

磯部行事幹事より、コロナ禍状況での今年度の行事について以下の通り報告がなされた。

(1)日本鉱物科学会2020年度年会・総会：2022年年会は、会場の都合上、下記のように場所を変更して実施。年会・総会の実施形態は、現地開催を基本としつつ、オンラインでの参加も可能とするハイブリッド形式での開催を予定。但し、今後の対応については、諸状況の推移を注視し、安全確保を最優先として判断する。決定事項の最新情報は、メール配信及び年会WEBサイトで周知の予定。

日程：2022年9月17日(土)～19日(月)、会場：新潟ユニゾンプラザ(〒950-0994 新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号)、形態：現地開催を基本とし、オンラインでの参加も可能とするハイブリッド形式の予定、学術講演：9月17日(土)午前、18日(日)午前・午後、19日(月)午前・午後、総会・授賞式：9月17日(土)13:00～16:30、スペシャルセッション：火成作用の物質科学、岩石—水相互作用を開催、世界鉱物年2022記念一般普及講演会(予定)：9月18日(日)14:00～16:00 新潟市万代市民会館「国石や新

潟島の石になる宝石ヒスイとは何だろう？～地球からの贈り物と世界最古のヒスイ文化～」(講演者：小河原孝彦 フォッサマグナミュージアム), 懇親会(予定): 9月18日(日)夜(詳細は後日告知), クロージングセレモニー: 9月19日(月)午後, 参加登録費(昨年度と同額), 事前料金: 一般会員7,500円・学生会員3,500円・非会員(一般)12,000円・非会員(学生)6,000円, 当日料金: 一般会員8,500円・学生会員4,000円・非会員(一般)13,000円・非会員(学生)6,500円, 講演申込み期間: 2022年6月22日(水)10:00～7月13日(水)20:00までに年会WEBサイトから申込, 巡検: 9月20日(火) 蓮華変成岩類と糸魚川の希産鉱物(予定), 巡検申込先: <https://logofom.jp/form/uqfT/98805>, 巡検申込締切: 8月19日(金), 巡検費用: 2000円.

(2) 2023年年会は, 大阪公立大学を会場として開催予定. 篠田LOC委員長, 瀬戸雄介会員を中心に準備中.

9. Elements報告(森下 Elements幹事代理: 黒澤庶務幹事)

森下Elements幹事より, Elementsの編集と刊行状況について下記の報告がなされた.

記事に関しては順調に出稿しているが, 刊行については連絡がきておらず詳細な状況が不明である. 三波川帯の特集号の提案については, 検討を進める予定. Elements誌本体の編集委員の推薦については, 辻森会員と検討を始める方向で調整中. 報告後の質疑では, 昨年度December 2021-Volume 17, Number 6号は発送済みであるが, 今年度2023, Volume 18第1号以降はまだ未刊行で, 当学会送りリストは指定期日まで提出しているが, 発送案内も学会事務局に届いていないとの補足情報があった.

10. 2021年度会計中間報告(栗林会計幹事・理事)

栗林会計幹事より, 日本鉱物科学会2020年度会計収支中間報告(2021年8月1日～2022年5月17日)について, 収支表が提示され詳細な説明がなされた. 会費請求の通知にもかかわらず, 学会費の納入が遅れているのは例年通りの課題であり, 引き続き回収を図る旨の報告があった. また, 次の報告事項にある2021年9月の広島大学開催年会での大きな剰余金(約90万円), 電子ジャーナル化移行に伴う節減分, 事務局管理費の節減などの積み重ねがあるものの, 今後, 会費及び賛助会員からの収入およびElements購読代金半期分の支出(約60万円+円安による為替差損)を合わせると, 最終的に約20万円程度の赤字収支になる可能性があるが, Elements購読代金2022年半期分の請求時期により次年度支払いになる場合はほぼ黒字になるとの見込みが報告された.

11. 2021年オンライン年会会計決算報告(栗林会計幹事・理事)

栗林会計幹事より, 2021年オンライン年会(広島大学)の会計決算について決算表が提示され, 説明がなされた. 行事報告にもあった通り, 行事委員会・広島大学LOCの尽力により多くの方々にご参加いただき, 予想以上の黒字(877,271円)となったことが報告された. なお, 法人化後は年会会計決算も7月の決算に合算され8月に監査を受け, 総会の承認を受けることになるので, 今回は報告のみとする.

12. 将来企画委員会報告(大和田委員長・副会長)

特に報告事項なし。

13. 特務幹事(細則等検討担当)報告(大和田特務幹事・副会長)

大和田特務幹事より、名誉会員推薦委員会内規の改正について以下の通り報告がなされた。

2022年3月31日(月)開催の第2回臨時理事会での諮問を受け、名誉会員推薦委員会内規および表彰等に関連する運営細則の変更について検討することにした。運営細則については、その他の部分も事業実態に合わせて内容を修正することを検討した。2022年4月19日(火)にオンラインでの会合を開き、その後、メールでの審議を踏まえて下記の答申をまとめた。

(1) 名誉会員推薦委員会内規<修正案> 下線部：加筆・修正部分

1. 一般社団法人日本鉱物科学会は、必要に応じて名誉会員推薦委員会を置くことができる。
2. 本委員会は、鉱物科学またはこれと密接に関連する学問分野において特に業績顕著な者、または本会に対し特に功労のあった者を名誉会員として理事会に推薦することを目的とする。
なお、名誉会員の適正総数は会員総数の概ね1.5%前後を目安とする。
3. 本委員会は、理事会から名誉会員候補者の推薦を行うように諮問された場合に設置される。但し、理事会において以下を審議し、承認された場合に限る。
 - (1) 会員幹事は、5月の第2回定例理事会直前に名誉会員適正総数を確認し、追加できる名誉会員数がある場合、理事会に報告する。
 - (2) 会長は、上記報告を受け、追加できる名誉会員数が適切であるか理事会に諮り、審議の結果、名誉会員の追加が認められた場合。
4. 本委員会は5名の委員で構成する。
 - (1) 委員は、理事会において正会員、名誉会員の中から選出して、会長がこれを委嘱する。
 - (2) 委員の任期は、委嘱された日から理事会への答申を終える日までとする。但し、その答申に関して定時総会で報告する必要がある場合は、その定時総会終了時までとする。
 - (3) 委員長は委員の中から会長が指名する。
5. 本委員会は、次に掲げる基準のいずれかを満たす者を名誉会員として理事会に推薦することができる。
 - (1) 鉱物科学またはこれと密接に関連する学問分野において、国際的な賞を受賞した者
例えば、IMA、AGU等での受賞した者。
 - (2) 上記(1)に準ずる賞を受賞した者
 - (3) 鉱物科学またはこれと密接に関連する学問分野において、世界的に顕著な業績をあげた者
 - (4) 本会に対し特に功労のあった者
例えば、日本鉱物科学会会長や和文誌、英文誌編集委員長などの重責な任務経験者
6. 本委員会は、上記5に掲げる基準を満たす名誉会員候補者を選出し、業績を吟味し、必要な場合は調査し、それを元に審議し、名誉会員として相応しい候補者を第2回理事会で認められた人数以内で推薦し、推薦理由書を添えて理事会に答申する。
7. 会長は、前項によって答申され、推薦された名誉会員候補者を理事会に諮り、その承認を得て名誉会員として決定する。
8. 名誉会員認定書の授与は定時総会において行う。
9. 名誉会員の氏名は、本会ホームページの「名誉会員」ページに写真と共に略歴を記載して公表する。
10. 本内規は、理事会の議を経て変更することができる。

附則

この内規は、法人設立登記の日から適用されるものとする。

令和4年(2022年)5月21日改正

(2) この内規変更(改正)に関する小山内名誉会員推薦委員会委員長からのコメントの報告

検討過程および改定案を拝読し、問題点が改善され、たいへんすっきりしたと感じます。特に、「名誉会員の推薦」に関して、理事会と推薦委員会の関係が極めて不明瞭であった点が明確化されたことは、重要な改善です。また、名誉会員数に関しても、それなりの制限を設けたことは、極めて重要だと思います。名誉会員については、学会としてキチンと議論できていなかった(してこな

かった)経緯があると思いますが、この度は、お送りいただいたように適切な内規改定が行われる運びとなり、良かったと思います。多々ご苦勞いただいた鍵委員長はじめ、検討委員会の皆様に敬意を表します。

(3) 運営細則 <修正案> 下線部：加筆・修正部分，2重線：削除部分

表彰等

第26条 本会に日本鉱物科学会賞、渡邊萬次郎賞、日本鉱物科学会論文賞、日本鉱物科学会研究奨励賞、日本鉱物科学会応用鉱物科学賞、櫻井賞、及び櫻井奨励賞を設ける。また必要に応じて、年會における優秀な研究発表、鉱物科学ならびに学会活動への特別な貢献に対して表彰を行う。

2 本会は、鉱物科学及びその関連分野で顕著な研究業績をあげた会員に対し、日本鉱物科学会賞を贈呈する。

3 本会は、渡邊萬次郎博士の寄付金を基金とし、鉱物科学及びその関連分野において卓越した研究業績をあげ、長年にわたりこれらの分野の発展に貢献した者に、渡邊萬次郎賞を贈呈する。

4 本会は、会誌に発表された本会会員による優れた研究論文を選び、その著者に対し、日本鉱物科学会論文賞を贈呈する。

5 本会は、研究の奨励を目的として、顕著な研究業績をあげた関連分野における若手の会員に対し、日本鉱物科学会奨励賞を贈呈する。

6 本会は、鉱物科学の応用研究分野で顕著な業績をあげた者に対し、日本鉱物科学会応用鉱物科学賞を贈呈する。

7 本会は、櫻井記念基金を基とし、新鉱物の発見に貢献し記載鉱物学の分野で顕著な業績をあげた会員に対し、櫻井賞を、記載鉱物学上の顕著な業績のあった若手の会員に対し、櫻井奨励賞を贈呈する。

8 本会は、~~鉱物科学またはこれと密接に関連する学問分野において特に業績顕著な者、または本会に対し功勞のあった者を名誉会員とし、認定書を授与する。~~

第27条 日本鉱物科学会賞、渡邊萬次郎賞、日本鉱物科学会論文賞、日本鉱物科学会奨励賞、日本鉱物科学会応用鉱物科学賞、櫻井賞、及び櫻井奨励賞の受賞者の選考は、別に定める各賞の規程及び名誉会員推薦委員会内規にしたがって行い、理事会において決定する。

(4) 運営細則でその他に検討が必要な部分 下線部：検討すべき部分

第5条 各幹事は次に掲げる業務を分担する。

(1) 庶務

(イ) 総会、理事会及び幹事会に関する事項

(ロ) 記録の作成・整理及び保管

(ハ) 文書の発受及び保管

(ニ) 出版物の配布

(ホ) 事務局の管理

(ヘ) 表彰に関する事項

(ト) 国内外からの寄贈・交換圖書の整理と保管

第22条 本会は会誌として和文誌(岩石鉱物科学)を毎年4回、と英文誌(Journal of Mineralogical and Petrological Sciences)を毎年6回発行する。

2 岩石鉱物科学は學術論文のほか、総説、解説、学会記事、ニュースなど、和文誌編集委員会が適当と認めた事項を掲載する。

3 Journal of Mineralogical and Petrological Sciences (JMPS)は學術論文のほか、JMPS編集委員会が適当と認めた事項を掲載する。

第23条 会員名簿を発行する。

第24条 その他の出版物の発行は幹事会で企画立案し、理事会の承認を経て行う。

第25条 その他の出版物を必要に応じて会員に配付することがある。

1 4 . 地感連合報告 (阿部連絡担当委員・理事)

阿部JpGU地感連合連絡担当委員より、JpGU理事会関係についての以下の報告がなされた。

1)JpGU2022大会：2022年5月22日(日)～6月3日(金)に現地参加とオンライン参加のハイブリッド型で実施。5月30日(月)には学協会長会議を開催予定。

1 5 . IMA小委員会・學術會議報告

(西山IMA小委員会委員長・學術會議連携会員，大藤IMA小委員会幹事・理事)

大藤幹事より，IMAリヨン2022での開催の件について下記の報告がなされた．
最終的に，五百数十件の発表申込みがあった．コストとスポンサーの関係で，ハイブリッド方式の開催は難しく，現地参加の開催となっている．ウクライナ情勢に関連して，現在，ロシアとベラルーシからの研究者の参加を公式には認めない形となっている．2026年のIMAは南京で開催を予定．報告の後，ダイバーシティやジェンダーへの対応の観点から，ハイブリッド方式の開催形態が望ましいとの意見があり，今後そのような申し入れを行っていくとのことになった．

16．JpGU 2021年学会選出プログラム委員報告（門馬委員長：代読黒澤庶務幹事）
特に報告事項なし．

17．会長・副会長候補者推薦委員会報告（磯部委員長・理事）

磯部行事幹事より，会長・副会長候補者の推薦について以下の通り報告がなされた．

(1) 会長候補者については，指定期日までに会員から大和田 正明会員の推薦を受けた．本推薦は役員選出内規の規定を満たしていることを当委員会（井上 徹，川本竜彦，佐藤 努，伴 雅雄，磯部博志）で確認するとともに，委員会での審議の結果，次期会長候補者に相応しいと判断し，本人からの承諾も得ているので，大和田会員を会長候補者として推薦することにした．

会長候補者 大和田 正明 山口大学大学院創成科学研究科 岩石学(火成岩)

(2) 副会長候補者については，当委員会で協議し，井上 徹会員を副会長候補者として推薦することにした．井上 徹委員を除く委員（川本竜彦，佐藤 努，伴 雅雄，磯部博志）で協議・検討をした結果，本人からの承諾も得ているので，井上 徹会員を副会長候補者として推薦することにした．

副会長候補者 井上 徹 広島大学大学院先進理工系科学研究科 高圧地球科学

以上を2022年5月12日に選挙管理委員会に届け出た．

18．選挙管理委員会報告（委員：中村佳博）

中村選挙管理委員より，役員候補者の推薦受付について以下の通り報告がなされた．

選挙の公示を役員規約に沿って実施し，投票月7月中の3ヶ月前の3月15日に選挙公示をした．期日まで，会長候補者として1名，副会長候補者として1名，理事候補者として24名，監事候補者として1名の届出があった．今後予定通り，投票期間初日の30日前まで学会HPに公示し，7月に選挙を実施する．

19．新鉱物・命名・分類委員会報告（門馬委員長：代読黒澤庶務幹事）
特に報告事項なし．

20．教育普及委員会報告（林委員長：代読黒澤庶務幹事）
特に報告事項なし．

21．博物館委員会報告（坂野委員長）
特に報告事項なし．

2.2. その他の報告

(1) WRI-17組織委員会報告（土屋 WRI-17組織委員長・理事）

第17回岩石—水相互作用国際会議 The 17th Congress of Water-Rock Interaction (WRI-17) and the 14th Applied Isotope Geochemistry (AIG14)は、2023年8月17日から8月23日に仙台市「仙台国際センター」で開催する (<https://www.wri17.com/>)。今後、コンビーナーの選定、発表の募集等を進める予定。開催形態もハイブリッド方式の方向で検討を進めている。

(2) 財政、雑誌・編集、事務局体制再建に向けた検討報告（大和田副会長）

特に報告事項なし。

(3) その他：特に無し

II. 審議事項

第1号議案 新入会員承認の件（阿部会員幹事・理事）

阿部会員幹事より、学生会員1名(記載省略)の入会が紹介され、異議なく入会が承認された。また、2021年5月第2回定例理事会で資格停止となっていた会員1名(記載省略)が会費を全納して復活した事が報告され、承認された。この結果、2022年5月21日現在の会員数総数は818名(内訳一般会員537名、シニア会員165名、学生会員76名、永年会員31名、名誉会員9名)で、2021年8月28日の定例理事会後より24名減少となった。審議の後、復活会員の定義について質問がなされ、会費未納2年以上で、理事会で会員資格停止となった会員が、未履行の義務である会費を納入して再度会員資格を復活した会員のことであることとの説明があった。

第2号議案 各賞選考委員会報告と審議（宮脇会長）

(1) 日本鉱物科学会賞選考委員会授賞候補者報告と審議（報告：井上委員長・理事）

日本鉱物科学会賞選考委員会井上委員長より、2021年度日本鉱物科学会賞第26回授賞候補者として森下知晃会員が報告され、受賞者として異議なく承認された。

2021年度日本鉱物科学会賞第26回授賞者

氏名：森下知晃 会員（金沢大学 理工研究域地球社会基盤学系）

業績題目：超苦鉄質 苦鉄質岩に着目した物質科学的アプローチによる海洋プレート及び島弧下マントルの形成・進化プロセスの研究

(2) 渡邊萬次郎賞選考委員会受賞候補者報告と審議（報告：伴委員長・理事）

渡邊萬次郎賞選考委員会伴委員長より、委員会で慎重に審議し選考した結果、2021年度渡邊萬次郎賞受賞第38回授賞候補者として山中高光名誉会員を推薦することが報告された。審議の結果、受賞者として異議なく承認された。

(3) 日本鉱物科学会論文賞選考委員会授賞論文候補報告と審議（報告：糀谷委員長）

日本鉱物科学会論文賞選考委員会糀谷委員長より、論文賞規定に沿って、以下の2編を2021年度日本鉱物科学会論文賞受賞論文候補として選考したことが報告された。審議の結果、受賞論文として異議なく承認された。

2021年度日本鉱物科学会第25回論文賞授賞論文

授賞論文: Anatomy of Shaku-dake high-Mg diorite, southwest Japan: Lithofacies variations and growth process of high-Mg diorite stock, JMPS, 116, 83-95, 2021.

著者: Keisuke ESHIMA

[受賞者となる会員著者] 江島圭祐会員

2021年度日本鉱物科学会第26回論文賞授賞論文

授賞論文: Neutron diffraction study of hydrogen site occupancy in $\text{Fe}_{0.95}\text{Si}_{0.05}$ at 14.7 GPa and 800 K, JMPS, 116, 309-313, 2021.

著者: Yuichiro MORI, Hiroyuki KAGI, Sho KAKIZAWA, Kazuki KOMATSU, Chikara SHITO, Riko IIZUKA-OKU, Katsutoshi AOKI, Takanori HATTORI, Asami SANO-FURUKAWA, Ken-ichi FUNAKOSHI, Hirouyuki SAITOH

[受賞者となる会員著者] 森悠一郎 会員, 鍵裕之 会員, 柿澤翔 会員, 小松一生 会員, 佐野亜沙美 会員

(4) 日本鉱物科学会研究奨励賞授賞候補者報告と審議 (報告: 河上委員長・理事)

日本鉱物科学会研究奨励賞選考委員会河上委員長代理より, 選考委員会で規定に則った審議の結果, 2021年度日本鉱物科学会研究奨励賞第31回受賞候補者として瀨織佑衣会員, 第32回受賞候補者として秋澤紀克会員を推薦することが報告された。審議の結果, 受賞者として異議なく承認された。

2021年度日本鉱物科学会研究奨励賞第31回授賞者

氏名: 瀨織佑衣会員 (名古屋大学大学院環境学研究科)

受賞研究: ラマン分光・赤外分光に関する基礎的研究と地質学全般への適用

2021年度日本鉱物科学会研究奨励賞第32回授賞者

秋澤紀克会員 (東京大学大気海洋研究所)

受賞研究: 上部マントルでの溶融 - 熱水活動記録の解読

(5) 日本鉱物科学会応用鉱物科学賞選考委員会受賞候補者報告と審議 (報告: 川野委員長)

応用鉱物科学賞選考委員会川野委員長より, 選考委員会で審議の結果, 2021年度日本鉱物科学会応用鉱物科学賞第14回受賞候補者として阿依アヒマディ会員を推薦することが報告された。審議の結果, 受賞者として異議なく承認された。

2021年度日本鉱物科学会応用鉱物科学賞第14回授賞者

氏名: 阿依アヒマディ会員 (Tokyo Gem Science社, GSTV宝石学研究所)

業績題目: 先端分析手法を適用した宝石の鑑別技術開発とデータベース構築

(6) 櫻井賞選考委員会受賞候補者報告と審議 (報告: 松原委員長代理・宮脇理事)

櫻井賞選考委員会松原委員長代理宮脇理事より, 選考委員会審議の結果, 2021年度櫻井賞は受賞候補者なしとして報告された。

(7) 2021年度JMPS学生論文賞受賞論文候補報告と審議 (報告: Satish-Kumar選考委員長)

JMPS学生論文賞選考委員会Satish-Kumar委員長より, 2021年度JMPS学生論文賞対象論文について委員会で検討した結果, 下記の2編を推薦することが報告された。審議の結果, 受賞論文として異議なく承認された。

第13回受賞論文：A new occurrence of okhotskite in the Kurosegawa belt, Kyushu, Japan: the okhotskite + Mn-lawsonite assemblage as a potential high-pressure indicator. JMPS, 115-6, 431-439, 2020.
受賞者：Wataru YABUTA (藪田 渉 投稿時：京都大修2)

第14回受賞論文：Modulated structure of hemimorphite associated with pressure-induced phase transition. JMPS, 116-5, 251-262, 2021.
受賞者：Keitaro OKAMOTO (岡本 啓太郎 投稿時：東北大博3)

第3号議案 研究発表優秀賞選考委員会に伴う新委員長の会長指名(宮脇会長)

委員長(会長指名)として吉田健太会員が承認された。また、吉田委員長より、新委員として以下の5名の1期目委員と副委員長の指名があり、審議の上、異議なく承認された。

委員長：吉田健太

継続委員(2期目)：吉田健太(委員長)、杉浦悠紀、湯口貴史、糺谷 浩、星出隆志

新規委員(1期目)：瀧川晶(副委員長)、田阪美樹、白勢洋平、伊神洋平、福山繭子

第4号議案 2022年度収支予算案の審議(宮脇会長、説明：栗林会計幹事・理事)

栗林会計幹事より、2022年度収支予算案が提示され、詳細な説明がなされた。電子ジャーナル化等の対応によって、購読会員収入の費目が無くなっている。2023年4月からの事務局体制の変更やホームページの改変による経常費用(支出)の部分はまだ分かっていないが、電子ジャーナル化により刊行費が大きく削減できているため、ほぼ収支均衡の予算が実現される予定である。また、今回の第2回理事会では、例年通り、現時点での予算案についてご審議・ご承認をいただき、その後7月の決算後に補正予算を立て、第3回定例理事会に提出して最終承認を受ける段取りであることが説明された。説明の後、ホームページの新規作成では初期費用として50万円程度かかるが、それ以降は年間10万円程度のコストであること、IMA加盟に対する拠出金に関する議論、事務局を委託する場合には準備金が必要との議論があった。以上の審議の後、2022年度収支予算案は異議なく承認された。なお、予算は理事会承認事項であり、総会承認事項ではないが、総会では最終予算案を報告する。

第5号議案 2022年年会の開催について(磯部行事幹事・理事、小西2022LOC委員長)

磯部行事幹事より、2022年年会・総会の日程・開催形態参加登録費・講演申込み期間の概要を次の通り決定した旨、説明があった。続いて小西2022年年会LOC委員長より、以下の開催場所と開催形態・一般普及講演会・懇親会・巡検等が提示された。説明の後、一般普及講演会と学術講演が重なる点は良いのかとの指摘があったが、会場予約の都合上、その日の午後は小規模な学術講演のみ予定しているため、ほぼ影響はない見込みとの説明があった。以上の質疑の後、異議なく承認された。

日程：2022年9月17日(土)～19日(月)

会場：新潟ユニゾンプラザ(予定) 〒950-0994 新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号

形態：現地とオンラインによるハイブリット形式

スペシャルセッション：「火成作用の物質科学」、「岩石—水相互作用」を開催。

世界鉱物年2022記念一般普及講演会：「国石や新潟県の石になる宝石ヒスイとは何だろう？～地球からの贈り物と世界最古のヒスイ文化～」(講演者：小河原孝彦(フォッサマグナミュージアム))

9月18日(日)14:00～16:00：新潟市万代市民会館

懇親会(予定)：9月18日(日)夜(詳細は後日告知)

巡検：9月20日(火) 蓮華変成岩類と糸魚川の希産鉱物：申込先 <https://logoform.jp/form/uqfT/98805>

参加登録費(昨年度当初予定と同額)

事前料金: 一般会員 7,500円 学生会員 3,500円, 非会員(一般)12,000円 非会員(学生)6,000円

当日料金: 一般会員 8,500円 学生会員 4,000円, 非会員(一般)13,000円 非会員(学生)6,500円

講演申込み期間: 2022年6月22日(水)10:00 ~ 7月13日(水)20:00まで

また、議案承認後、ハイブリット形式の内容についての補足があり、ポスターは現地公開とe-ポスターの併用、口頭発表も現地での状況のオンライン配信などの工夫を行うこと、その詳細を後日アナウンスするとの説明があった。また、昨年 of 年会実施の状況を踏まえ、年会開催の事務経費を年会会計に計上した方が良いのではとの提案があった。来年度以降は、登録費等の徴収を決済システムで行うなど事務局の負担軽減を検討中であるとの説明があった。

第6号議案 2023年年会(大阪公立大学)運営委員名簿提出

(磯部行事幹事・理事, 篠田2023LOC委員長)

磯部行事幹事より、大阪公立大学で開催される2023年年会の現地運営委員会のメンバーについて次のような構成とすることが提示された。委員長篠田圭司、瀬戸雄介、福田惇一(以上、大阪公立大学)、奥地拓生(京都大学)。審議の上、異議なく承認された。また、篠田委員長より現在、様々な準備を進めているとの報告があった。

第7号議案 名誉会員推薦委員会内規の変更に関する審議

(大和田細則等検討委員会委員長・理事)

大和田細則等検討委員会委員長より、名誉会員推薦等検討委員会(委員長 鍵 裕之理事)からの答申内容を受け、細則等検討委員会で名誉会員推薦委員会内規の見直しを検討した結果、下記の修正案が提示された。提示の後、名誉会員の適正総数を会員総数の概ね1.5%とすると、適正数を満たす名誉会員数になった場合、それ以降の新規推薦がしばらく難しい状況に繋がる可能性があるとの指摘があった。この件については、追加推薦の必要性あるいは適正総数の修正等を理事会で議論すれば良いとの説明があった。以上の審議の結果、一部原案を修正することで異議なく承認された。また、運営細則における表彰の部分および事業形態に関する修正も提案された。表彰の部分は、審議の結果、一部原案を修正することで異議なく承認された。事業形態に関する修正は、次回以降の理事会で再度提案することになった。事業形態に関する部分には、会員名簿の発行の件も含まれており、将来の検討課題とすべきとの意見があった。

名誉会員推薦委員会内規<修正案> 下線部: 加筆・修正部分

1. 一般社団法人日本鉱物科学会は、必要に応じて名誉会員推薦委員会を置くことができる。
2. 本委員会は、鉱物科学またはこれと密接に関連する学問分野において特に業績顕著な者、または本会对し特に功労のあった者を名誉会員として理事会に推薦することを目的とする。
なお、名誉会員の適正総数は会員総数の概ね1.5%とする。
3. 本委員会は、理事会から名誉会員候補者の推薦を行うように諮問された場合に設置される。但し、理事会において以下を審議し、承認された場合に限る。
 - (1) 会員幹事は、5月の第2回定例理事会直前に名誉会員適正総数を確認し、追加できる名誉会員数がある場合、理事会に報告する。
 - (2) 会長は、上記報告を受け、追加できる名誉会員数が適切であるか理事会に諮り、審議の結果、名誉会員の追加が認められた場合。
4. 本委員会は5名の委員で構成する。
 - (1) 委員は、理事会において正会員、名誉会員の中から選出して、会長がこれを委嘱する。
 - (2) 委員の任期は、委嘱された日から理事会への答申を終える日までとする。但し、その答申に関して定時総会で報告する必要がある場合は、その定時総会終了時までとする。
 - (3) 委員長は委員の中から会長が指名する。
5. 本委員会は、次に掲げる基準のいずれかを満たす者を名誉会員として理事会に推薦することができる。

- (1) 鉱物科学またはこれと密接に関連する学問分野において、国際的な賞を受賞した者
- (2) 上記 (1) に準ずる賞を受賞した者
- (3) 鉱物科学またはこれと密接に関連する学問分野において、世界的に顕著な業績をあげた者
- (4) 本会に対し特に功労のあった者
例えば、日本鉱物科学会会長や和文誌、英文誌編集委員長などの重責な任務経験者
6. 本委員会は、上記5に掲げる基準を満たす名誉会員候補者を選出し、業績を吟味し、必要な場合は調査し、それを元に審議し、名誉会員として相応しい候補者を第2回理事会で認められた人数以内で推薦し、推薦理由書を添えて理事会に答申する。
7. 会長は、前項によって答申され、推薦された名誉会員候補者を理事会に諮り、その承認を得て名誉会員として決定する。
8. 名誉会員認定書の授与は定時総会において行う。
9. 名誉会員の氏名は、本会ホームページ等に写真と共に略歴を記載して公表する。
10. 本内規は、理事会の議を経て変更することができる。

附則

この内規は、法人設立登記の日から適用されるものとする。

令和4年(2022年)5月21日改正

運営細則<修正案> 下線部：加筆・修正部分，2重線：削除部分

表彰等

- 第26条 本会に日本鉱物科学会賞、渡邊萬次郎賞、日本鉱物科学会論文賞、日本鉱物科学会研究奨励賞、日本鉱物科学会応用鉱物科学賞、櫻井賞、及び櫻井奨励賞を設ける。また必要に応じて、年会における優秀な研究発表、鉱物科学ならびに学会活動への特別な貢献に対して表彰を行う。
- 2 本会は、鉱物科学及びその関連分野で顕著な研究業績をあげた会員に対し、日本鉱物科学会賞を贈呈する。
 - 3 本会は、渡邊萬次郎博士の寄付金を基金とし、鉱物科学及びその関連分野において卓越した研究業績をあげ、長年にわたりこれらの分野の発展に貢献した者に、渡邊萬次郎賞を贈呈する。
 - 4 本会は、会誌に発表された本会会員による優れた研究論文を選び、その著者に対し、日本鉱物科学会論文賞を贈呈する。
 - 5 本会は、研究の奨励を目的として、顕著な研究業績をあげた関連分野における若手の会員に対し、日本鉱物科学会奨励賞を贈呈する。
 - 6 本会は、鉱物科学の応用研究分野で顕著な業績をあげた者に対し、日本鉱物科学会応用鉱物科学賞を贈呈する。
 - 7 本会は、櫻井記念基金を基とし、新鉱物の発見に貢献し記載鉱物学の分野で顕著な業績をあげた会員に対し、櫻井賞を、記載鉱物学上の顕著な業績のあった若手の会員に対し、櫻井奨励賞を贈呈する。
 - 8 本会は、鉱物科学またはこれと密接に関連する学問分野において特に業績顕著な者、または本会に対し功労のあった者を名誉会員とし、認定書を授与する。
- 第27条 日本鉱物科学会賞、渡邊萬次郎賞、日本鉱物科学会論文賞、日本鉱物科学会奨励賞、日本鉱物科学会応用鉱物科学賞、櫻井賞、及び櫻井奨励賞の受賞者の選考は、別に定める各賞の規程及び名誉会員推薦委員会内規にしたがって行い、理事会において決定する。

第8号議案 事務局業務委託に関する検討方針（大和田副会長）

大和田副会長より、将来の学会事務局のあり方の1つの案として、学会事務の業務委託も一つの選択肢として検討を進めたいとの提案がなされた。審議の上、異議なく承認された。

第9号議案 第3回定例理事会，総会開催日の件（黒澤庶務幹事・理事）

黒澤庶務幹事より、第3回定例理事会を監査と定時総会開催日の都合上、2022年8月23日(火)～8月25日(木)に開催したいとの提案があり、この件に付いて日程調整を行った後に決定する提案がなされ、異議なく承認された。なお、監査は理事会開催日午前中実施予定、2022年度定時総会は9月17日開催予定である。

その他の議案

1. 名誉会員推薦委員会設置に関する提案（阿部会員幹事・理事，宮脇会長）

改正された名誉会員推薦委員会内規に沿って，名誉会員推薦委員会の設置が進められた。

- 1) 阿部会員幹事より理事会に以下の報告がなされた。今回の第2回定例理事会(2022年5月21日)での会員数818名と改正された名誉会員推薦委員会内規の名誉会員適正総数概ね1.5%から考えると，適正とされる名誉会員数は約12名であり，現在の名誉会員数は9名であることから，追加できる名誉会員数があり，最大3名の会員を名誉会員に推薦できる状況にあることが報告された。
- 2) 宮脇会長はこの結果を受け，追加できる名誉会員数として最大3名が適切であるかどうか理事会に諮り，審議の上，異議なく最大3名の名誉会員の追加が適切であると承認された。
- 3) 名誉会員追加の承認を受けたことにより，理事会は，名誉会員候補者の推薦を行うため名誉会員推薦委員会を設置し諮問することになった。
- 4) 名誉会員推薦委員会設置について，昨年委嘱された名誉会員推薦委員会(小山内委員長)の設置は，議事録から継続された状況にあるという意見があったが，宮脇会長より，昨年からの推薦委員会は昨年2021年8月28日(土)に答申しているので，内規「委嘱された日から理事会への答申を終える日までとする。」に該当すると解釈して一旦任期終了とすること，および今回改正された名誉会員推薦委員会内規の下で，新たな名誉会員推薦委員会を立ち上げる提案がなされ，審議の上，異議なく承認された。

以上から，宮脇会長より，名誉会員推薦委員会委員5名の選出について，これまでの経緯を踏まえ，昨年委嘱された委員(下記)を改めて理事会で選出する提案がなされ，審議の上，異議なく承認された。委員長については，ご本人の了承を経てお願いすることになった。

委員長(委員の中から会長指名・委嘱)：小山内康人

委員(5名)：小山内康人，土山 明，吉朝 朗，大和田正明，阿部なつ江

上記委員は，会長から委員委嘱があり次第，名誉会員候補者の推薦作業を進めることになった。

2. 特になし

閉会 以上の議事を終え，17時25分に閉会した。

上記の決議を明確にするため，出席した会長，副会長及び監事がこれに記名押印する。

令和 4年 6月 11日

会 長 宮脇 律郎 印

副会長 大和田 正明 印

監 事 小暮 敏博 印
(配布時押印省略)